

# 愛あい和わ

No. 108 2014春号

## 特集

共生の時代を生きる

あなたに「師」はいますか？

藤平信一さん／吾妻徳彌さん／見城美枝子さん



## 虐待の連鎖から 喜びと感動の連鎖へ

NPO 法人サークル・ダルメシアン代表

シンガー・ソングライター

岡田ユキさん

### 虐待されていた自分も 息子に手を上げていた

毎日のように報道される、子どもにもまつわる悲しい事件……。中でも親が子を虐待し、ときに死亡させる事件は後を断ちません。つい目を背けたくなるこうした問題に、真っ向から取り組んでいる女性があります。シンガー・ソングライターとして活躍する傍ら、虐待防止カウンセラー、音楽療法家として活動する岡田ユキさんです。

「虐待の根本原因を知ることが、実はそんなに難しいことはありません。その原因をきちんと見つめることができれば、必ず悩みも苦しみも解決します」

今は明るくそう言い切る岡田さんですが、実は、岡田さん自身がかつて虐待の被害者でした。

「私が生まれるときは大変な難産で、一時は母の命も危うかったそうです。私には二人の兄がいますが、母は西陣織の職人だった父の仕事を手伝っていたので、育てたのは、当時お手伝いに来ていた親戚のお姉さ

んでした。事実上、母にとつては私が初めての子育てだったのです」

虐待のそもその原因は、母親が親として未熟だったこと。内面は子どもそのまま自分を産み育てたことにあつたのだと、岡田さんは言います。

物心ついた頃には、母親から絶えず「この世に出てきたときから私を苦しめた」「あんたは悪魔の子や」「死ね」といった言葉の暴力を浴びせられ、「私は悪い子なんだ」「生まれてきちゃいけなかったんだ」と思っていたという岡田さん。柱に縛られ殴られるなど、肉体的暴力も日常茶飯事でしたが、父親は見えて見ぬふり。家族の誰からも顧みられず、思春期には自殺を図ったこともあつたと言います。

「虐待する親の典型的なタイプは、内面が子どものまま大人になつてしまった人です。子育ては誰にとつても大変なものです。普通に母性の発達している親であれば、何か問題が起これば、学んだり考えたりしますよね。ところが、私の母のような親は、思いどおりになら

ないことが起こると、一方的に相手が悪いと考えてしまう。それが、たとえ生まれたばかりの赤ちゃんだとしても、です」

岡田さんによれば、母性とは「本能」ではなく、経験を通して身に付けていくものだそうです。その根底にあるのは、子ども時代にしっかりと愛されて育てられたという経験や記憶であり、それらを通して母性は知らず知らず育まれ、身に付いていくというのです。

「虐待は連鎖する」という言葉を耳にしたことはないでしょうか。実は、わが子を虐待する親は、自分も子どもの頃に虐待された人が多いといえます。

岡田さんの母親も、調べてみると、子ども時代にさまざまな問題を抱え、それが原因で根深いコンプレックスとトラウマに捕らわれていたことが分かりました。さらに岡田さん自身、離婚して一人息子を必死に育てていたあるとき、無意識のうちに息子に手を上げている自分に気付きます。

恐怖で硬直している息子にハッと

昭和36年京都府生まれ。平成6年NOCボーカルコンテスト銀賞受賞。10年ミュージカル「未熟なママに捧げます」を総合プロデュース。11年CDアルバム「FAMILY」をリリースするなど、広く音楽活動に従事している。一方で、自身の虐待体験をもとに、虐待防止カウンセラーとしても活動。児童虐待防止の市民活動団体「サークル・ダルメシアン」の代表も務める。自らの体験を綴った『みにくいあひるの子供たち』『虐待根絶マニュアル』等の著書がある。  
http://okadayuki.com

し、このままではいけないと思った

岡田さんは、ライティングセラピー（自分の生い立ちを書くことで虐待の原因を分析する手法）を重ねた後、幼い頃からの唯一の心のよりどころとなっていた歌の世界を目指して上京。シンガー・ソングライターとして自立を果たしたのです。

## 過去の親子関係から離れ 今のパートナーを大切に

自身の経験から、音楽は大きな癒しの力を持っていると感じていた岡田さんは、虐待に悩む人たちへのカウンセリングでも、積極的に音楽を取り入れています。

「虐待されて育った人、自分が虐待をしてしまい悩んでいる人は、まず、その原因と向き合う必要があります。これはとてもつらいことですが、その原因を知って納得できなかったら、堂々巡りのままなのです。その上で、例えば歌を歌う、楽器を弾く、といった音楽を通して心を解放させることで、『私は私でいいのだ、価値のある人間なのだ』という人間本来の心を取り戻してもらうですね」

実際、岡田さんが歌手として出演しているクラブで、虐待体験に悩む人たちに歌や楽器の演奏で前座を務めさせると、どんどん明るくなつて自信に満ちてくるといいます。華やかな舞台上に立ち、皆の前で自分を表現することでストレスを発散でき、日常に戻ったときに優しい気持ちで家族に接することができるといいます。喜びを与えることで自分に返ってくる喜びを実感する。こうした経験が大事なのだと岡田さんは言います。

「そのためには、過去の親との関係から離れて、現在の一番身近な



歌手として華やかな舞台に立つと  
心は一気に解放される

パートナーである夫（妻）や恋人と良い意味での依存関係を築き、『喜びを与える・もらう』という絆を強めることも重要です。ですから、カウンセリングにはパートナーと一緒に参加してもらうことも多いですね。この段階を経ると、ほとんどの人が虐待の悩みから解放されます」

虐待の問題は根深いものがありますが、解決法は必ずあると、岡田さん。「私は親に愛されなかったから、母性が育っていない。だから愛情深い母親にはなれない」と悲観する必要もない、と言います。大人になってから追体験することで徐々に母性を育んでいくことは可能で、カウンセリングではそうした

トレーニングやアドバイスも行っています。

カウンセリングを重ねていくうち、最初は涙に暮れていた相談者が、最後は「ばかだったなあ、これまでの自分は。あんなことにこだわっていたなんて」と、笑って帰っていく姿を見ることがどれくらい多いかはそうです。

「私の体験が多くの人役に立ち、自分の持っている宝に気付いてくださる瞬間に立ち会えるのは、この上ない喜びですね。その意味では、今は私も、亡き両親に感謝しています。私自身がこうした活動を通して多くの人と出会うことができ、喜びと感動の連鎖をもらえるのですから」